

カキ「太秋」の特性

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹部

研究のねらい

農林水産省果樹試験場安芸津支場で育成され、県推奨品種である「太秋」の本県における樹勢、結実性、果実品質等の特性及び適応性を検討した。

研究の成果

1. 来歴

農林水産省果樹試験場安芸津支場において、「富有」に「HiG - 16」(次郎×興津 15号)を交配して得られた品種である。

2. 樹性

樹姿は開帳と直立の中間で、樹勢、樹の大きさとも「松本早生富有」並みの中位である。雌花、雄花、完全花の3種類の花を着生する。雌花の着生は中位、雄花の着生は多い。

3. 果実特性

果実の大きさは、340g程度で「松本早生富有」よりもかなり大きい。果形は円形かやや偏形であり、果皮色は銅橙色でカラーチャート値で4～5赤身の薄い品種である。果肉は他の品種に比べて著しく軟らかく、多汁で、糖度も18%と高く、食味が優れている。

4. 条紋の発生が多く、果頂部から赤道部にかけて同心円状に生じる場合が多い。

ただし、朱紋の出た果実は、出ない果実に比べて、糖度が高く食味もよい傾向にある。

5. 成熟期は、本県においては「松本早生富有」よりやや早い10月下旬から11月上旬が適期と考えられる。

普及上の留意点

1. 雌花を十分に着生させるために、樹勢を強めに維持するとともに、強い新梢を発生させるような努定を行う必要がある。条紋は品種特性であり、完全になくすることはできないが、秋季に果実を過度に肥大させないようにし、樹冠内の通風を良くすることにより、その発生を軽減することができる。

2. 強風による杖折れ、落果が多いため、防風垣、防風網、支柱誘引などの強風対策が必要である。

3. 適応性は、おおよそ「富有」や「松本早生富有」が栽培できる地域は可能と考えられる。夏期の気温が十分に上がらない高冷地では渋みが残る可能性があるため、このような地域では露地栽培は適していない。

表 1 根の特性 (H 3 ~ H 6)、農業研究センター果樹研究所

品種	樹姿	樹勢	枝の発生密度	発芽日	花芽着生雄花	花芽着生雌花
太秋	-	中	中	3/27	中	中
松本早生富有	やや直	中	中	3/25	無	多~中
富有	開	中	中	3/25	無	多~中

表 2 開花期、収穫期及び果実品種 (H 3 ~ H 6)、農業研究センター果樹研究所

品種	開花期盛	収穫期盛	果実重(g)	糖度(Brix)	果色 (カラーチャート)	条紋	汚損果率%
太秋	5/17	10/30	337	18.1	4.5	中~多	57
松本早生富有	5/15	11/10	218	18.0	5.3	無	10
富有	5/18	11/19	238	18.1	5.3	無	4



「太秋」の果実



「太秋」の結実状態